

情報通知

研究課題名 :

亜急性期脳卒中患者の静止立位における姿勢制御特性の類型化と損傷ネットワークとの関連性の検討

研究実施者 :

平野 晋吾^{1,2)}(研究実施者・理学療法士)、五十嵐 達也³⁾(理学療法士、助教授)、光武翼⁴⁾(研究責任者・理学療法士、准教授)、
坂本麻衣子²⁾(臨床心理士、教授)、川口淳²⁾(教授)、中薗寿人⁵⁾(作業療法士、准教授)、谷口隆憲⁵⁾(理学療法士、講師)
猪岡 弘行¹⁾(理学療法士・科長)

1)埼玉よりい病院 リハビリテーション科
2)佐賀大学大学院 医学系研究科
3)文京学院大学 保健医療技術学部 理学療法学科
4)佐賀大学医学部 臨床研究センター
5)福岡国際医療福祉大学

研究の目的 :

バランス機能は日常生活動作や生活の質へ影響を与え、脳卒中者では健常者と比較して有意に低下することが報告されています。また、バランス機能は多くの要素によって構成されており、多くのバランス機能の低下には多くの原因が関与している可能性が示唆されています。そのため、脳卒中者に対してバランス機能を適切に評価し、個別に介入することは重要です。近年、脳卒中者のバランス機能に対するリハビリテーションとして Virtual Reality 技術やロボット技術を用いた介入が行われてますが、効果の有無に関しては一定の見解を得られていません。その要因として、対象者の様々な特性によって適切な介入方法が異なる可能性があり、特定のバランス機能の特徴をもったグループを明確にすること、リハビリテーションの介入方法の選択をより円滑化する可能性があります。しかし、脳卒中者の立位時におけるバランス機能の特性は明らかとなっていません。また、バランス機能に関わる神経ネットワークは未だ明らかとされておらず、それを明らかとすることは、バランス機能の低下におけるメカニズムを解明するために重要な知見となります。

そのため、本研究の目的は、脳卒中者の静的立位時におけるバランス機能の特性とその特性に関わる脳の神経ネットワークを明らかとし、個別的かつ効果的なリハビリテーションの介入方法の選択をより円滑化するための一助となることです。

研究の対象：

本研究は単施設で実施され、共同研究施設はありません。研究期間は2025年1月～2027年1月です。対象者は、2023年7月～2025年10月の間に埼玉よりい病院のリハビリテーション病棟へ脳血管疾患にて入院し、リハビリテーションを実施した患者様とします。当院の診療録データベースの情報を見返して、情報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

収集する情報：

① 脳画像データ② 性別③ 疾患名④ 疾患部位⑤ 発症日⑥ バランス機能検査の結果⑦ 認知機能検査の結果⑧ 重心動搖検査(機械の上に立ち重心の揺れを記録する検査)となります。

情報の保管および破棄、情報公開の方法：

本研究は、埼玉よりい病院の倫理審査委員会の承認を得て実施しています(承認番号: Y251225-1, 承認日: 2025年12月25日)。データを解析する段階では、個人を特定できる情報は含まれません。検査結果はExcelへの出力およびID番号を用いて対応表にて管理します。ファイルはパスワードでロックし、HDDは施錠可能な室内にて保管します。研究終了後(令和7年度3月)のデータの取り扱いは、デジタルデータがいかなるソフトウェアでも復元できないようPC上で完全に削除します。また、脳画像を含めた収集データは院内のみで使用され、外部への提供はいたしません。また、病院外への持ち出しを禁止します。研究結果は、学会発表および学術論文等で公表する予定です。公表の際は、個人が特定されないように統計的に処理し、匿名化(または仮名化)した形で提示します。

見込まれる医学上の貢献：

神経学的かつ臨床的に脳卒中患者様のバランス機能低下におけるメカニズムを明らかとするために重要な知見を提供し、個別的かつ効果的なリハビリテーション方法の開発のための一助となります。

研究に関する問い合わせ先：

本研究への参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

参加を拒否された場合でも、診療内容や今後の治療・看護等に不利益が生じることはありません。

住所：埼玉県大里郡寄居町大字用土395番地

電話番号：048-579-2788(内線532)

担当者：埼玉よりい病院 リハビリテーション科 理学療法士 平野晋吾